情報公開文書

2023 年 1 月 18 日作成

Ver.1.3

下顎智歯抜歯時の術後知覚鈍麻の治癒経過に関する多機関共同後ろ向き観察研究

1、研究の目的と意義

下顎智歯（下あごの親知らず）抜歯時の術後合併症の１つである下唇の知覚鈍麻は、発症率は低いですが症状が中長期的に継続することが多く、患者さんの口腔機能に影響を与える可能性のある合併症であり、留意が必要です。以前当科で行った知覚鈍麻の発症率に関する多機関共同後ろ向き研究では 20 歳代の若年者で 1.3%、60 歳以上では 4.76%と過去の報告とほぼ同等でした。治療方法は一般的にマッサージや内服薬を併用し回復を待つことになりますが、回復には個人差が大きく、一部治癒がほとんどで完全治癒することはまれであるとされています。そのため少しでも回復に寄与する因子について科学的根拠を用いて明らかにすることが必要です。

今回は、知覚鈍麻について過去の診療録より、知覚鈍麻を発症した際に回復に寄与できる因子および回復を阻害する因子について検討を行う予定としています。本研究を行うことで少しでも明らかにできる可能性があり、今後の口腔外科診療に貢献できると考えます。

2、対象となる患者さん

2014 年 4 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日の間に研究参加施設（長崎大学病院、重工記念長崎病院、市立大村市民病院）で下顎智歯を抜歯された患者さん。

3、研究の方法

多機関で症例を集めて、下顎智歯抜歯後に知覚鈍麻を発症した症例を抽出し、治療方法、回復までの期間、回復の程度について検討する予定です。

4、研究に用いる情報

本研究は診療録より下顎智歯抜歯時の患者情報、術前情報、CT 所見および最終観察日の知覚鈍麻に対する治療および症状に関する情報を集めて、検討を行う研究です。

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

2023 年 6 月 27 日～2024 年 12 月 31 日

6、外部への情報の提供

研究実施機関で収集された患者さんの情報は、個人を特定できない状態にして症例報告書としてまとめ、研究代表機関である長崎大学病院へ郵送にて集められます。

7、研究実施体制

本研究は多機関共同研究です。

長崎大学病院を中心に県内の３機関で実施します。

詳しい研究機関についてお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

≪研究代表者≫

長崎大学病院　口腔外科　鳴瀬　智史

〒852－8501　長崎市坂本１丁目７番１号

電話：095（819）7698　　FAX　095（819）7700

≪共同研究機関/研究責任者≫

重工記念長崎病院　歯科口腔外科　六反田　賢

市立大村市民病院　歯科口腔外科　福嶋　大将

8.お問い合わせ先

長崎大学病院　口腔外科　鳴瀬　智史

〒852－8501　長崎市坂本１丁目７番１号

電話：095（819）7698　　FAX　095（819）7700

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課　095（819）7616

受付時間　　：月～金　　9：00～17：00（祝・祭日を除く）